

■日時：平成27年8月18日（火）午後1時30分～午後4時00分

■場所：吉野町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：第4回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：

・こんにちは。今日が第4回目になります。第1回からスタートして、ワーキンググループを発足していただきまして、今日も打合せをさせていただいた中では、法人化する話も具体化してきていますし、そういうところも今日のところで話をさせていただければと思っています。昨日は三寄楼に宿泊させていただきまして、本日の朝食はすばらしいものを出していただきました。皆さんにお世話になりました。ぜひ、そういうところも拠点として、皆さんの力でひとつずつ作りあげていくことが大切だと感じています。この後、皆さんからお話を聞きたいと思っていますので、今日もよろしく願いいたします。

3. 案件

(1) 前回の議事録の確認

■事務局より、**資料1**をもとに説明。

◎会長：本議事録案をもって、公開対象としてよろしいか。

→全委員異議なく、承認。

(2) 人口の将来推計について

■事務局より、**資料2**をもとに説明。

◎会長：

・人口の将来推計について説明があったが、この件について何かご質問・ご意見等はあるか。

→質問・意見等特になし。

(3) アンケート調査結果について

■事務局より、**資料3**をもとに説明。

◎会長：

・アンケート調査結果について、皆さんも普段からこういうことではなかろうかということが結果として出てきたということを今聞いていて感じていたと思うが、このことについて、何かご質問・ご意見等はあるか。

◎委員：

・先日県南和地区のビジターズビューローの会議に出席してきた。

・上北山村では、中学生が村全体で12～13人、小学生が1年生から6年生までで3人しかいないと聞いた。

- ・出生者はもっと多いが、小学校に入る時に同級生がいない、まともな教育が受けられないということで家族で移住、転出してしまふ。仕事がある方は、ご主人だけが上北山村に通っているということである。
- ・吉野町においても将来的に出生数が10人ほどになるということは、小学校になる時点で吉野町からいなくなるという可能性がある。子育て世代の人口を増やさないことには、壊滅的な状態になってしまうことを頭に置いて、将来のビジョンを持たないといけないと思う。

◎会長：

- ・今、委員の発言にあったとおりだと思う。
- ・どのような人口構造をもっていかということを考えなければならない。
- ・7,000人から4,500人になる、世帯数が約2,000世帯になってくる中で、基幹産業を含めて、この地域でどれだけ食べられる、稼ぐしくみを作っていくことは大変重要になってくる。
- ・その政策と合わせて、教育環境について、幼小中一環教育なのか、どういう形にもっていくのかということは話し合っていかなければならない。部分個別の最適化をかけても全体の最適化にはならない。そこをトータルで考えていく必要性があり、その部分を総合戦略、人口ビジョンにおいて考えていく必要がある。大変貴重なご意見である。

◎委員：

- ・アンケートの中で1点気になったことは、子どもが遊ぶ場所がないというご意見があり、今年度教育委員会の方で吉野運動公園に遊具を設置するという考えがある。
- ・それはそれでありありがたいが、どのような遊具がどの程度いるのかなど、アンケート調査をしたりしているのかと心配に思う。
- ・これだけ子どもが減ってきた中で子どもだけの遊具で良いのか、高齢者が増えてきている中で、高齢者と子どもがいっしょにできるような遊具が良いのかなど、その部分が大事だと思う。

◎会長：

- ・そのあたりはどうでしょうか。

◎事務局：

- ・情報不足であるので、確認しておく。

◎会長：

- ・確認しておいてください。
- ・鹿児島県鹿屋市のやねだん集落では、今年中に公民館を建て直す。あわせて、私自身五感六育を進めているが、木育施設を作ろうという話になっている。
- ・移住してきていただいたアーティスト7人がいるので、子どもが産まれている。ただ、子どもだけが楽しめるだけでは圧倒的に子どもが少ないので、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に楽しめるような施設にしていこうという話になっており、今おっしゃっていた

いたとおりである。そこを考えていかないと子どもは何人いるのかということになる。でも、その子ども達が楽しんで、家族も楽しめるものにしていくことが大事。

- ・もう一つ大事なご意見があったが、広聴である。広く意見を聞いてやっていかないといけない。この意見には大賛成である。数%の意見だけで進めてしまっては失敗する。その部分では、広聴を徹底してほしいというご意見である。

(3) 各ワーキンググループの進捗状況の共有について

■事務局より、資料4を元に説明。

◎木工振興 WG :

- ・第2 回目の会議を8月4日に開催した。
- ・2回目なので、第1 回目の会議の内容から一步踏み込んで、吉野材、木の暮らし、木の文化というものにどういう要素があるのかを出し合って、それがどう産業に繋がっていくのかというところを考えた。
- ・自由に意見やいろんな要素を出し合って、それを分野毎に整理した。そこから、何が良いのか、これならできるのではないかと探していく中で、5つの分野が出てきた。
- ・「吉野材」の 카테고리、「木育・木工・家具」、「建築」、「樽・桶」、「職人」の5つ。
- ・「吉野材」の分野では、日本中いろんな産地がある中で、吉野材にはどのような優位性があるのかを見える化をすることで、消費者の方がだから吉野材が良いのではないかと、使いたいと思ってもらえるようなデータを作ることができないだろうか考えた。
- ・吉野林業のストーリー、すばらしい資産である歴史、木と生きる人という部分、吉野には木を使う達人が集まっている地域だと思うので、そういう地域で育まれた木材であるということはどう伝えることができるか。
- ・「木育・木工・家具」の分野では、日常的に木や森の大事さを体感できる場が少ないという課題が見えてきた。ここでは、木育がメインと思うが、小さい子どもだけではなく、子どもを育てている親世代が木の楽しさや大事さを体感できるような場ができないかと考えた。
- ・今、中学校で使っていただいている机が、インフルエンザの予防に効果があるのではないかと話が出てきて、自分たちで使っているだけでももったいないので、いろんな学校で使っていただいて、これもデータ化できれば、木の良いところがわかり、身近に木を持っていたら、吉野から販売できる部分でもあるので、事業としてやっていけないかと考えている。
- ・「建築」の分野では、木の家が木材の需要として大きいので、ここは外せないところである。木を使えば良いということではないであろうという意見があり、美しく木を使う、吉野の美しい風景を作る。もともとあった風景が少しずつ変化してきて、このままいくとどこにでもある風景になり、吉野らしい風景でなくなる。これが吉野の風景だと言えるようなものができるか。それがモデルハウスではなく、モデル地域のようなことができないかと考えている。新築やリフォームの補助金があるが、そこに風景を作るための規制、例えば、見える部分に自然素材を使うと補助金額が上がるなど、吉野の風景を作っていくように誘導することなどを施策の中に盛り込んではどうだろうか考えた。
- ・子どもと木には親和性がある。大阪で木工教室などをすると子ども達は木が好きである。そこか

らなぜか木から離れていく。吉野では、もっともっと木に近づいていけるようなことができないかと考えている。

- ・木の家を作るのは、一般の人ではない。「職人」が大事になる。機械でできる部分と機械でできない部分がある。機械でできない部分は、職人の手仕事になる。その部分を大切にすることが、木の暮らしを維持していくための重要な要素ではないかと考えている。だから、吉野は、職人を大事にする町であるというスタンスを発信できればと思う。
- ・「樽・桶」は、吉野林業はもともとここからスタートしているという歴史がある。そこで使ってもらって吉野材は1番のパフォーマンスを発揮する。それは歴史が証明してくれている。そういう背景がある中で、和食が世界遺産に登録されており、和食の1番大切な基礎の部分にある調味料に醤油がある。木桶で仕込んでいる醤油は全体の1%ほどしかない。これが日本全体で少しずつ見直されつつある。国会議員の中でも、日本食を推進して伝えていこうという日本食文化普及推進議員連盟があり、その中で調味料を作るための木桶にもフューチャーしてくれている。吉野杉が木桶にふさわしい木なので、うまくリンクしていく動きを吉野町としてできないかと思っている。
- ・お宮さんやお寺さんで神事をするときに木の桶を使うことがある。今使われている桶には、古いものが多い。50年、100年前のものを大切に使われている。木はそれくらい使えるが、50年、100年経つてくると修理するか、新調しなくてはならなくなる時期になってきている。ただ、どこにも桶屋がない状態であり、HP上で木桶を扱っていると発信していると問合せがくる。特にこれからそういう部分のニーズもすごくあるのではないかと考えている。実際に木桶を作る職人さんも日本中で100人もいない。関西でも知る限り10人程度である。うまく吉野が窓口になれば、神事に使うものなので、吉野がふさわしいのではないかと考えている。日本人は、そういうところを大事にすると思うので、結構大事な部分かと思う。作れる人が減っていくことが目に見えていて、自分たちがわかっているのに、この危機に気づいている人は少ないと思うので、大事にしたいと思う。
- ・職人を育成することは大事。育成しても食べていけないと意味がない。いかに需要を作るかが大切だが、木桶でいうと、それだけで食べていけるということはないので、製材所をしながら桶屋もする、林業しながら桶屋をするなど、何かやりながら桶屋をするような事業をする場合に何か支援をしていただければ、技量が伝わって、来るべき時代に対応できるのではないかと考える。
- ・今日また会議をするが、民間でできる部分と行政に応援してもらわないといけない部分を整理していこうと思っている。

◎木の子 WG :

- ・前回の推進会議の翌日に木村会長を交えて意見交換した。
- ・2回の会議を通して、木の子は自立していかないといけないということがわかった。
- ・ボランティアでは続けていけない。法人化のアドバイスをいただいて、新しい道だと思っている。
- ・WGにいろんな方に入ってもらい、改めて今の形でやっていけないか確認した。法人化する意味は何かなど、何度も話し合った。
- ・木村先生や役場が何かしてくれる、何かがあるから法人化するのではなく、自分たちが自立したいということである。

- ・木の子文庫の拠点は、関わる人が増えて、今までよりも違う使い方ができた。親子で集える場所がないといろんな会議で聞くが、文庫が集える場所になりつつある。文庫に来られた方がカフェを運営してくれたり、来てくれたお母さんがワークショップをしてくれたりしている。自分たちの想像を超えた拠点の使い方が去年1年間であった。それを広げていける可能性があると思った時に法人化によって、その可能性が広がると感じた。
- ・法人化することによって、きちん収益を上げて、関わった人にきちんと還元ができて、自分たちも家賃なども払っていける形になりたいという思いが文庫のメンバーの中で出てきている。
- ・法人化するにあたって、2本の柱を考えている。一つは、地域のコミュニティとしての居場所になること。
- ・二つ目は、地域の方や木工振興WGやスポーツ振興など、いろんなことをしているところと自分たちの活動は繋がることのできる場所がたくさんある。いろんなところとつながりをもった活動もしていけると思っている。
- ・そのために、まず一般社団法人になる方向で進めている。それを踏まえて、3回目のWGを予定している。皆さんとの関わりを作っていくために、直接話をさせていただきに行って、木の子はこういう形でこういうものを目指していて、こういうことを考えているということを伝えさせてもらって、いろんな活動を重ねさせてもらって、いろんな意見ももらいながら、自分たちが良いというものだけでなく、関わってくれる人、使う人が良い形、良いものになっていくように育てていきたいと思っている。

◎国栖の里振興WG：

- ・第2回の会議を8月10日に木村会長を交えて開催した。
- ・WG委員だけではなく、観光協会の各工房の皆さんにも集まっていた。
- ・経過説明をした後、皆さんからいろんな意見を聞いた。
- ・地場産業の激変と後継者不足の問題、主要施設や公的施設の縮小や撤退、国栖地域の観光客の滞在の問題点ということで宿泊施設、食事処、トイレがないという点がある。
- ・日本で最も美しい村連合に登録、加盟されているが、具体的な取り組みが出来ていない。
- ・景観の保全や歴史文化の継承の必要性がある。歴史を語れる人が限られてきている。
- ・そのようないろんな意見を踏まえて、木村会長の方から宮崎県綾町や広島県竹原市や北海道小樽市など、全国の取り組みを紹介いただいて、国栖地域に適した案をいただいた。
- ・最終的に国栖の小学校跡地について、幼稚園の園庭に体験農園を作ってはどうか、園舎内外に木育施設を作り、五感六育を推進し、五感を働かせた体験教育などに取り組んでいけないかとの話が合った。
- ・宿泊について、旅館等の運営には、20室で5,000万円/年の売上げがあれば維持していけるという試算もしていただいた。
- ・とにかくできるところからやっっていこうということで、史述に基づいた歴史の語りべと道しるべの必要性が大事であろうと、同じ地区の人が同じ史述を共有し、語りべにならないと、一方で1,000年前と言い、一方で1,300年と言っているようではいけないと思う。統一した歴史の認識も必要であるので、勉強会も開催したいと思っている。
- ・食については、木村会長からのご提案で「国栖カレー」はどうかということで1日20食を目標

にすれば採算も取れるであろうし、通信販売等も視野に入れて取り組んでいけば良いのではないかとアドバイスをいただいた。「国栖カレー」ということで吉野葛を入れたら良いだろうとの意見もいただき、今後、試食なども含めてどのように進めていけばいいだろうかと行政の方とも相談して、国栖の里ほりおこし会の皆さんも取り組んでいただけたらと思うので、具体化していきたいと思っている。

- ・ いずれの取り組みも地元参加の事業構想にならないといけない。地元で利益が生まれるようにしなければならぬという話もいただいた。
- ・ 中小企業庁の商業、人口調査を平成28年度に予定してくれている。厚生労働省の後継者育成セミナーも開催する予定であるので、関わってきたい。
- ・ 食材については、鳥獣害の被害などで1番安全なところで実際ににんにくの生産を開始している。そういうところをもう少し大きくできれば良いと思う。しかし、有機栽培、無農薬でやると出来が悪くなってしまい、虫が入ってしまうが、逆にその方が良いのかと思う。きれいなものよりも自然のままのものを食べていただく方が良いということもある。
- ・ これは、自分の別の意見であるが、体験施設などを充実させていかないといけないと考えている。小学校に木育などの体験をしていただいて、そこで食事をとって、そこで体験するのではなく、その地域の実際に作っているところに行って、実際に肌で感じて体験をしてもらう。物だけではなく、その場所に行って体験をしてもらう。そうすることで場所を知っていただくという取り組みが必要ではないかと思う。
- ・ 小学校の社会科でも地場産業の割り箸や和紙産業を4年生の教材では取り上げてくれている。しかしながら、30年ほど前は国栖に観光バスが何十台と来る時代であった。それが教育の中身が一緒であるが、学校として行く所がどんどん変わってきている。今は、年に1つか2つの学校しか来なくなっている。来なくなったとそのままにしておいてもいけないので、観光協会としても各学校に対して、どういうところで国栖に来ないのかなど、聞き取り調査をして、それができる改善点などを見つけ出して、もっと来ていただけるように取り組んでいきたいと思っている。
- ・ WGは一旦10月くらいを目処に終わらさうと思うが、奈良県南部東部振興課へ事業申請を出させていただいている。これが通ったら、9月から来年の1月までNPOの方と役場の地域担当職員の方とで引き続いて、今ある問題に取り組んでいきたいと思っている。
- ・ 他のWGを見ると若い方が多いが、国栖でも若い人の意見をどんどん取り入れて、考え方も聞いていかないといけない。次の組織では、若い方も入っていただいて、おおよそ30名規模で考えている。時間が限られている中で難しい面もあるが、更に議論を深めていって、より具体的な話をしていきたい。せっかくの機会なので、うまく継続していって取り組んでいきたいと思う。
- ・ どこの地域もお盆になると人が帰ってきて人でいっぱいになる。しかし、お盆が終わるとみんな帰ってしまう。あれだけの子どもさんと親子連れが吉野町に滞在すれば、まったく人口が減ることなく、増える一方だと思う。せっかく人が集まる機会になるので、何かしかけていって、行政としても吉野にはこういうものがあるとPRするなど、また地域としてもどうしたら皆さんにこのまま住んでもらえるかなど、いろんな意見を聞く良い機会になる。新子にしても、窪垣内にしても花火大会や盆踊りをしたが、大勢の方が帰ってきていた。帰ってきてくれる良い場所だが、住んでくれる場所にしていくためにこれから考えていかないといけない。

◎事業継承 WG :

- ・第1 回目を8 月3 日に全員出席で開催させていただいた。
- ・メンバーは地域の上市商店会、後継者として吉野に帰ってきた若手のメンバー、空き家対策をしている空き家コンシェルジュ、吉野町商工会事務局長、南都銀行支店長も交えて、事業の支援までもできるようなメンバーになっている。
- ・事業継承という大きなテーマであるので、まずは、メンバーでどんなことができるかを話し合った。なぜ吉野に帰ってきたのか、どういうことをしようとしているかというところを掘り下げて話をした。
- ・いろいろ意見は出たが、たくさんも出来ないのも、二つくらいのテーマに絞った。
- ・吉野町の上市は1 番便利で商店街も役場もある。上市というので、市もあり、商売もしていた地域である。どんどん商店街もなくなって、廃れてきているが、三寄楼や空き家コンシェルジュができたり、ねじまき堂ができたりと上市が活気づいているところもあるので、そういうところから上市商店会も復活、商売をしてもらえるようなことを考えていけないかと問題点やどこで商売ができるかなどを見つけていければと思う。また、新しくできたところと、もともとあるところをうまく繋いでいければと思う。
- ・実際にチャレンジしてみようと考えているのは、市があったところなので、朝市をしてみようという試みである。そのあたりを検討課題としていければと考えている。
- ・他の WG の話と合致する部分で、後継者がいない、技術を次の世代に移していけないということもたくさんあると思う。現状、何が問題かと思うと、例えば、子どもを大学まで行かせて、自分の家業を継がせるよりも、大企業に就職して都会で暮らしていった方が安定的な生活ができるのではないだろうかという親心を持っている人が多いのではないかと思う。帰ってきてほしいけど、親が自分の仕事を継がせたくないという部分もあるのではないかと思う。その事業を第三者にゆだねることも考えられる。
- ・商工会が事業者に対してアンケートを取ってみてはどうかとの意見が出た。それに関しては、国栖の和紙など、技術的なことも継承したいと思っている方や木工の職人さんも事業を引き継いでいきたいけれども後継者がいないなどの現状を掘り下げて、うまくマッチングさせるような取り組みができればと考えている。その掘り起こしが事業継承に繋がるのではないかと思う。残せる仕事と残せない仕事があるかもしれないが、実際に事業をやっている皆さんの意見を吸い上げることが大切だと思う。
- ・以上の2 点を重点的に掘り下げてやっていって、目標を作っていこうと考えている。

◎委員 :

- ・事業継承と少し違うかもしれないが、箸組合の方からアンケート調査のお願いをされている。
- ・箸組合で問題になっていることは、材料がないことである。事業者数が減ったこともあるが、売上はある。ただ、材料が入手困難なため、良いチャンスなのに売上に繋がらない。
- ・県にもお願いもさせていただいたが、県全体の木の生産量は増加しているにも関わらず材料がないことがおかしいという話をされたとのことである。
- ・吉野の割り箸は、丸太を柱でひいたその端材を使ってしていると説明をしたが、自分たちで調査をして、数値化をしないといけないと考えた。数値化をして、改めて県の方にお願いをさせていただこうと考えている。

- ・本日箸組合の理事会があり、アンケートをしていただけることになると思う。
- ・昔は、製材所と割り箸業者が近接していた。今は、建築業法が変わり、柱を使わない方向になっていることも関係しているかもしれないが、県内でどの程度材料を入手しているのか、県外であればどこから入手をしているのかを具体的に探れば良いと思う。
- ・事業継承の観点から、割り箸業者の方の平均年齢も高く、このまま5年、10年推移すると吉野に割り箸という産業がなくなってしまう。非常に深刻な状況である。後継者がいない場合、後何年で事業をやめられるのか、そのあたりも合わせて調査する。
- ・選択肢としては、決して親子の事業継承だけではなく、移住をされた方に継承することも考えられる。移住された方に事業を継承することに関して、事業者の方はどのように思われるかという点も設問に入れていく。
- ・昔吉野では、製材をする以前はほとんどが樽丸をしていた。今はもう1件になっている。仕事はあるが、従業員を増やすことはリスクも高く、負担も大きい。5年、10年後には樽丸産業がなくなると考えると真剣にやる気がある方であれば考えることもできるということで、HPで募集をした。20代と40代の男性から2件問合せがあり、1件でも後継者、事業継承に繋がる活動が出来ればと思う。

◎スポーツ推進WG：

- ・7月30日に第2回目の会議をさせていただいた。
- ・自由に意見を出し合っている状況でまとめるまでには至っていない。
- ・高齢者の方だけでなく、子どもやワーキング世代に夢や目標を持てる地域にしていけないかと考えた。
- ・定年後、趣味を兼ねた第二の仕事ができるような環境づくりができないかと考え、それが社会貢献にもつながっていけば、その方にとっても生きがいになるし、ゆとりのある生活にも繋がる。
- ・高齢者が外に出て行きたくなることを何か提案していければ、要介護になるリスクを減らすことにも繋がるかもしれないとの意見もあった。
- ・町内の老人クラブの参加者が年々減少している。それは、会自体の中身に問題があるとも思える。元気な高齢者が多い中でどのようなことを望んでいるのかなど、アンケートをして、新しい形の老人クラブを作っていくことも大事だと思う。
- ・小さなコミュニティを大事にしたい。元気な高齢者が多い中で、子どもと関わる機会を多くしたい。交通の便が悪い中で親御さんの負担も多い。地域の中で高齢者が助けていければとの意見もあった。
- ・長野県では、村全体で高齢者の最後をみとるという地域もあると聞いた。
- ・みんなで集まってスポーツをした後にお話を聞いて、いろんなコミュニケーションをとることができる場所がほしいとの意見もあった。子どもから高齢者までが集える場所がほしい。
- ・おはなしカフェでお母さんがゆっくりできる時間を提供している中で、町外から来られる方の意見で気づかされることもあるとの意見もあった。いろんな会はちょっとした工夫、心遣いで成功できる。
- ・人口が減っていく中で小さな行政体にして、小さいなりにうまくやっていく方法がないかとの意見があった。無理に何かをすると負担にもなる。上手な縮小のしかたを考えることも必要ではないかとの意見もあった。カフェをやりたいと吉野に移住してきた方が地域との付き合いが大変との意見もあ

り、地域の祭りや行事がその方の負担になり、移住が良かったかどうかとの意見も聞いている。地域の行事なども上手に縮小していくことも考えていかないといけない。

- ・守っていくべきものと時代の流れに応じて、あるものをなくす、変えていくことも必要である。そういう見分けも大事にしていきたい。
- ・龍門地区の千股の運動会は毎年同じ時期に開催され、60年ほど続いている。小さな場所で開催しているが、その2、3日だけ日頃の3倍ほどの人口になる。東京、大阪などに出ている方がその日を楽しみに帰ってこられる。続けることは大変だが、帰ってきてくれる人の顔を見ると続けなければならないと今まで続いている。そういうところにまちづくりのヒントがあると思う。
- ・今までの意見を総合して、スポーツ振興WGとしては、目指すところを決めて、そのためにどういう取り組みをするかを一つずつ考えていきたい。
- ・次回に向けて、スポーツと連携していけるものに何があるか、読み聞かせや高齢者にとって良い環境とはどんなものか、福祉との積極的な連携をどうするかなど、議論していきたい。

◎会長：

- ・情報共有ということで5つのワーキンググループから報告をいただいた。
- ・ここからは、ワーキングの内容など、何でも結構なので、順番にご発言いただいていない委員からご発言をお願いします。

◎委員：

- ・テレビで見たが岐阜の25件しかない集落で鮎の独特な網漁のイベントを年に1回だけ実施している。千股の運動会の話もあったが、その日だけ人口が250～300人になるとのことであった。その日を目がけて、集落に帰ってこられるとのことであった。それが何十年と続いている。
- ・国栖地域では、新子、国栖、窪垣内の3大字で夏祭りを行っている。その時に人口が増える。そのときにいろんな出会いがあり、婚活もできるかもしれない。
- ・地域での催しは大切にしながら、前に進んでいくことが、過疎化が進む吉野町の今後の歩み方ではないか。何かのヒント、礎になると感じた。

◎委員：

- ・木工振興WGの報告にあったが、お墓参りのときに木の桶を持っていきかけたが、どこにも無かった。下市の方で桶を作っている方がいたが、桶は高いからホームセンターの桶で十分だとの話をされた。結局、ホームセンターで買ったが、吉野杉で出来た桶でお墓参りに行けたら良いと思った。プラスチックの桶が並んでいる光景を見るとあれが杉なら良いと感じる。神事だけではなく、家庭で使える桶があっても良いと思う。
- ・小さなコミュニティのお祭りでは、「よう帰ってきたな～、また帰っておいで」と言って、別れていく。自分たちが毎年やっているおはなしカーニバルにも毎年九州から帰ってきてくれる方がいる。いつも吉野は良いと言ってくれている。住んでくれれば良いが、何回も来てくれているうちに住んでくれるかもしれない。何かを続けて、ここに来れば何かがあるという環境があればいいと思う。
- ・スポーツ振興WGでは、はじめて協同して、さくら園に体操とおはなしで行くことになっている。いろんな出会いで活動が広がっていけば良いと思う。

- ・スポーツ振興 WG の中で報告のあった長野県の村は、南部の泰阜村というところで、自分の布団の上で最後を迎えられるように何年か前の村長さんのときに始めている。吉野町でも、吉野町を好きで住んでいるので、周りが支えていける地域になれば良いと思う。ぼやぼやとした話になるが、こういう中に見つけていけるものがあると思う。

◎委員：

- ・製材所、貯木場の中でも後継者が帰ってきていない。せっかく設備など整っているのにそのまま終わらせるのはもったいない。
- ・第三者が入ってきてもらえれば、設備があるところで事業を引き継ぐことができる。設備投資は1番お金がかかる。それをそのまま捨てるのではなく、そのまま続けて、使っていく中でいろんな方法を考えていくこともできる。このまま衰退させていくのはもったいないと思う。

◎委員：

- ・今日たまたま見た新聞に吉野町のことが書いてあった。親が町内に住み、大学、専門学校に通う学生に対し、月額3万円の奨学金を貸与し、卒業後3年以内に町内に居住すれば返済が免除されるという制度を町が採用していることを知らなかった。
- ・こういうことを知っている方は知っているし、知らない人は知らない。知らない方に情報提供できる機会があれば良いと思う。
- ・人口推計のデータを見て、社人研推計では、2040年に3,600人になる人口を4,500人にすることを目標にしてがんばるとのことである。約1,000人増やすためには、現状やっている施策以上に更に刺激していく案がもう少し必要と感じる。

◎オブザーバー：

- ・農林部の関係で箸については、県の方針として、私の認識では、出材した木材を全て使う、A材、B材、C材を全て使うという取り組みをしていると聞いている。直接、農林部に問合せいただいてもいいし、南部東部振興課に問合せいただいても対応する。

◎委員：

- ・吉野町副町長にお願いし、県に問合せをさせていただき、ならの木ブランド課の担当者の方からお電話をいただいた。
- ・使っている木材の量としては、平成25年度から平成26年度にかけて増加しているので、箸材が足りない原因がわからないとのことであった。
- ・箸材は、柱をひいた端材を使うことになるので、数字では表れてこないと思う。箸組合員40事業者ほどあるので、アンケート調査をお願いし、データ集積を進める。現状は、盆明けも材料を積んでない事業所もあり、明日の仕事をする材料がない状況である。奈良県の方にぜひとも相談に伺わせていただきたい。できるだけ県産材を使用したいが、現状では県産材だけでは対応しきれない。個々に材料がないと言っても始まらないので、今後何らかの取り組みをしていくためにデータ、数値化をして、相談させていただきたい。

◎オブザーバー：

- ・私どもの方でも対応させていただく。また、南部東部振興課には、林の技術職もならの木ブランド課から来ている。専門職も交えて対応する。

◎委員：

- ・木工振興 WG と事業承継 WG に関連するところで、家業で建具屋をしているが、息子が後を継いで、今3代で事業をしている。ストーリーの話題も出ていたが、そこはすごく大事だと思っている。父や主人も言っているが、建具は木の命の移し替えなので、木の上下もあるし、使い方もある。DIYなどが流行っているが、木なら何でもいいという使い方をしている。吉野材や木工製品、家の良いところは、大工さんなど関わる人が木のことをわかって作っているところであるが、きちんと伝わっていないと感じる。父や主人は、木の使い方を考えて仕事をしているが、息子は言われたことをしている状態だが、そこを知る方法がない。木を扱いながら覚えていくところだと思うが、大事な部分である。DIYなど木を使うお母さんなどが木を買う時に、木の使い方などがわかれば、なぜ吉野材なのか、なぜ吉野材が良いのかなどが分かり意味も変わってくる。私たちにとって当たり前のことが本当に知られていないので、ストーリーはすごく重要である。
- ・歴史資料館で昔の職業についての絵巻きが残っていて、池田先から話を聞いた。吉野の材木を売る方が載っていて、位の高い方で袴を着ていて、口上、プレゼンをしながら売っている様子が画かれていた。吉野の木のどこが良いかをプレゼンして売っていたことを池田先生にお聞きして、ものすごくおもしろいと感じた。そんな歴史もあり、絵巻きにも残っている土地だと改めて知った。
- ・昨日、大和郡山市の「とほん」という本屋に行かせていただいて、吉野の歴史を描いた手ぬぐいが売っていた。絵巻きなども繋がっていれば、吉野材はもっとおもしろくなると思ったので、木工振興の部分とも関わらせていただきたいと思った。

◎委員：

- ・個人的な感想になるが、木を使った家のイメージが昔の日本建築になる。今の若い人には、かっこいい家や住みやすい雰囲気求められる。その部分に吉野材を使って、全面に出していくことが大事ではないかと思う。国産材を使うとは、昔の家というイメージはないだろうか。デザインをする人からお世話をしていくことなどが大事だと思う。

◎委員：

- ・昔ながらの重厚な造りの家も良いと思うが、実際に都市部に建っている家はそういうものではなくなってきた。和風だけれども昔という感じではなく、今の時代にあったような洗練した感じの家があることを知らない方が結構多い。そういう家づくりをされているところで吉野材が活躍していることも結構多い。それを地元の方にも知ってもらい、吉野材を使ってこんな素敵な家が建つということが広がっていくと木の柱も出ていくことになる。今求められているような家もどんどん建っている。それを広めていきたい。ハウスメーカーの分譲住宅ではなく、木の美しい家も増えている。ただ、自分たちは増えていると感じるが、一般の方にとってはほんの一部の世界である。いずれは、あんな家に住みたいという憧れのような家になっていくとみんなではないが1%程度でもなっていくと良い。

- ・ 林業でも最近植林していない。木が太っていく一方で柱に丁度良い寸法の木が減っていく。木を切
って、また植えていけないといけないが、この20年ほど止まっている。間違いなく20年後には、
今以上に厳しくなる。製材所は、木が大きいなりに対応できるが、そういうところにも着手してい
かなければならない。

◎会長：

- ・ 小学校や中学校の中で少しでも使って、その子どもたちに知ってもらう機会を作る。
- ・ 戸建てに全部使うのではなく、今ある家の改修に使う場合には、外から見える部分に使うところの
支援をするなどでしょう。
- ・ 景観形成についても散在しているよりも、ある程度紹介できるような形で街が形成されている。強
制はできないが、できるだけ木を使いましょうと持っていく。山形県金山町では100年かけて、
町並み形成をしようと動いている。100年かけて、毎年1棟ずつでもいいので作っていくとして
いるところもあり、景観をどう作っていくかということで講演にも行ったことがある。

(4) その他

■その他連絡事項等

◎事務局：

- ・ 次回開催日時 9月15日(火) 午後1時30分～
- ・ 全5回の会議開催を予定していたが、現状、将来人口をお示したところである。第5回の会議
において、人口ビジョンの最終案と総合戦略素案を提示させていただく。よって、会議の開催を
1回、もしくは議論の進展状況によっては2回、追加で開催させていただきたい。
よろしくをお願いします。

◎会長：

- ・ 目標としては、10月までにまとめていきたい。総合戦略にワーキンググループの議論の内容を
できるだけ盛り込みたい。人口ビジョン、総合戦略を策定して終わりではなく、そこから具体的に
実践していくので、それはそれで進めていただくこととしたい。以上で会議を終了する。ご協力
ありがとうございました。